

## 早春

疲労の中にめり込んでゆく  
細い枝々が ゆうらり、と  
また、ゆうらり、と交叉する

そこに見開かれた微かな花々  
透明ではない薄紙  
ひかりを呼吸する薄紙

それらを愛で  
そして  
沈み落ちてゆく

これから始められる交合  
これから始められる死滅  
その同義であることを謳歌する花々

ある者は意思、という  
しかし  
ある者はたくらみ、という

限りなくほそい毛細血管  
あるかなきかのようなそれらを透けた  
肌

あわあわとした  
触れたい、というそよぎ  
ひとしずくの媚薬

その樹木のはるか向こうから  
その枝垂れたすぐ先へと流れる川  
みず

力なく風にそよぐ腕を取り  
その意外な重さに  
するりと抜け落ちる想い

哀しみを増幅する何者も居ない

その故に  
涙は止まることを意思しない

ひらひらとはためく花卉  
それらに歌を強いる者こそ  
我を生かしむる者

(2009.3.30)